

課題研究 高校教育の社会学

## 現代アメリカの教育改革 — 連邦レベルの視点から

今村令子 (聖徳大学)

昨年度課題研究「高校教育改革の社会学」に於いて、現在進められている高校教育改革の「改革」の部分に重心を置き、今日、どのような問題を解決するためにどのような改革が進行しつつあるのか、そして今後どのような改革が望まれるのかを検討した。

今年度は、「高校教育」のほうに重心をずらし、改革が必要となった背景すなわち高校教育の構造と機能の現状を、他のシステムとの比較検討、量的検討および歴史的検討によって明らかにし、あわせて今回の改革によって構造や機能の本質的な変化がもたらされるのかどうかを考える。

今村氏の分担は、現代アメリカの中等教育改革を連邦レベルの動向に於いて明らかにし、それによってわが国の高校教育の構造と機能の現状および今後の課題を検討する視点を提供することである。

今村氏は、「学力の問題」「規律の問題」「民主主義を支える人材の育成の問題」などのアメリカ中等教育の課題に焦点づけながら、それらへの連邦レベルでの対応を社会的・歴史的に検討する。よく知られているように、アメリカの教育システムは州ごと、教育委員会ごとに多様である。また、伝統的に連邦政府は州や各教育委員会に対して介入しないことになっている。それゆえ、本来ならアメリカの中等教育改革を連邦レベルで検討するということには無理があるかもしれない。

しかしながら、今や、それが全くの無理ではなくなっている。実際に、

連邦政府による州政府や各教育委員会への介入(=対応)もはじまっている。これらは先に挙げた「学力の問題」「規律の問題」「民主主義を支える人材の育成の問題」などのアメリカ中等教育がかかえる課題の特徴と深刻さゆえのことである。

### ※研究部注

今村氏は、体調を崩され静養中のため、この発表要旨集録は、これまで数回にわたって開かれた打合せでの氏の報告に基づいて、研究部・樋田が作成した。氏による資料・レジュメは当日配布される。